



# だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば  
代表 桑波田 和子  
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
(一財)千葉県環境財団事務局  
環境活動支援課気付  
電話 043-246-2180  
FAX 043-246-6969

## 子どもと大人と地域が育つ「こどもエコクラブ」

### こどもエコクラブ全国事務局



こどもエコクラブは1995年にスタートした子どもの環境活動をサポートする事業です。環境をキーワードとして、子ども同士が仲間をつくり、大人と一緒に活動します。3歳の幼児から高校生がメンバーとして登録でき、2014年度は全国47の都道府県で約2200クラブ、10万人を超える子どもたちが活動を展開しました。

クラブの形はさまざまで、幼稚園・保育園、学校で登録することもあれば、家族、近所の友だちでクラブを作ったり、ボーイスカウト・ガールスカウト、地元のサッカーチームや子ども会など、既存の団体で登録することもあります。こどもエコクラブに登録することで、仲間同士の間で「環境」という共通の視点が生まれ、例えば通学路に落ちているごみの特徴に気づいたり、見慣れた景色の中に自然の豊かさを再発見したりなど、自分たちの身近な地域の環境について考えるようになります。

そんな子どもたちの「ビックリ!」「なんで?」を応援するのが、活動を一緒に行う「サポーター」と呼ばれる大人たちです。家族の場合は保護者の方、幼稚園・保育園、学校は先生や保育士の方がサポーターとなっています。活動を通じて子どもたちの好奇心に触れ、そして地域の環境の現状を知ることで、自分自身が環境への興味が高まり、活動熱心になるサポーターも少なくありません。

また、クラブの活動を支えているもう一つの柱が、都道府県と市区町村が担う地域事務局です。約500の地方自治体がこどもエコクラブ地域事務局として窓口を開設し、クラブの活動を地域の方にお知らせしてくれたり、地域の環境情報をこどもエコクラブに提供してくれたりしています。千葉県では、こどもエコクラブに向けたニュースレターの配布や、県内のクラブが集まる交流会を開催してくれています(2015年度は10月4日(日)谷津自然観察センターにて開催)。

上記のように、子どもたちの環境学習や環境活

動を、地域の大人たちが一緒になって育てることがこどもエコクラブ事業の特長です。こどもエコクラブに参加することによって、大人たちも地域の環境を学び、地域で活動する人々の輪を生み出すことも事業のねらいの一つなのです。

### 子どもたちの「未来をつくる力」を育む

地球温暖化、ごみ・廃棄物の削減など、子どもたちは日々環境問題について耳にしたり、様々な知識を学んでいます。大人顔負けの知識を持つ子どもたちもいるでしょう。しかし、環境を守るために自分たちができることを考えたり、実際に行動に移したりする段階までなかなか踏み込めない子どもも多くみられます。

とあるクラブは、地域のごみ拾いからスタートし、活動を続けている間に「どんなごみが多いのか」「何曜日が多いのか」という疑問が生まれ、みんなでデータを取るようになりました。その結果、一番多いごみは「吸い殻ごみ」であることがわかり、タバコを吸う大人にもっと気をつけてもらいたいと、地域に「タバコポイ捨て禁止」のポスターを貼ってもらうようお願いしたり、今では地域の人に呼びかけたりする活動に発展させています。仲間と一緒に話し合いながら活動を続けることで、課題発見・解決能力とコミュニケーション力が身につく、「ごみを拾う」から「ごみを減らす」という活動に変革させることができたのです。

別のクラブは、校庭に生えている木を全部調べ、全体で約10トンの二酸化炭素をため込んでいること、そしてそれは一般的な家庭の11軒分の1年の排出量でしかないことを調べ上げました(一般家庭の年間の排出量を約9,000kgとして計算)。それらの体験や調査を通して、子どもたちは樹木の力に驚くとともに、エネルギーの使い方を工夫



しなければならぬことを実感し、日々の暮らしの中で自分たちにできる省エネの取組を始めました。

こどもエコクラブの活動を通して、子どもたちがどんどん逞しく・頼もしく成長しているのを、

全国事務局として日々感じています。こどもエコクラブが、子どもたちの「未来をつくる力」の育成に少しでも貢献できればと思っています。ぜひ、多くの方に参加・ご支援いただければ幸いです。

## 「千葉県環境月間」ポスター作品の表彰

千葉県環境生活部 循環型社会推進課

昭和47年6月に、国際連合人間環境会議の開催を機に、国連は、6月5日を「世界環境デー」に制定しました。

これを受け、千葉県では、昭和48年から毎年6月を「千葉県環境月間」に設定し、環境保全に対する意識を高めるための行事を実施しています。

この環境月間行事の一環として、毎年、千葉県では、県内に居住又は通勤・通学する方を対象に、環境保全に関するポスターを募集しており、平成28年度ポスターは、平成27年10月31日(当日消印有効)まで募集しています。

最優秀賞に選ばれた作品は、千葉県環境月間ポスターとして、期間中、千葉県、市町村、学校等に掲出するほか、その他の入賞作品についても、千葉県等の広報及び催し物で使用し、環境保全に対する意識を高めるための啓発に活用します。また、入賞者は翌年の環境月間に表彰式を行う予定です。

前回の募集では449作品の応募があり、最優秀

賞1点、特選3点、準特選5点が選ばれ、平成27年6月5日に表彰式を行いました。

そのほか、期間中は、千葉県環境研究センター、千葉県立中央博物館、市町村など各地で様々な催しが開催されました。

ポスターの募集要領や今年度実施された催しなど、詳しくは、千葉県ホームページを御覧ください。



平成27年度最優秀賞  
千葉県立松戸六実高等学校  
1年 川野渚さんの作品

千葉県環境月間

で 検索

## 第18回ふなばし環境フェア出展報告

日時：平成27年6月6日(土)  
10:00~16:00

会場：船橋市中央公民館

4・5・6階及び館前広場

主催：船橋市環境フェア実行委員会(45団体)

テーマ：「未来へ残そう！」

ふるさとふなばし自然の宝庫

出展：市民23団体、事業者16団体、行政6団体、後援 船橋市教育委員会。

当日は天気に恵まれたこともあり、来場者は昨年3,000人に対し今年は倍の6000人となりました。当環境パートナーシップちば・ふなばし、及びエコメッセちば実行委員会としてパネル展示を中心にアピールしました。例年通り部会長の谷合氏とスタッフでエコメッセ2015inちばへの出展依頼活動をした結果数件の参加希望の申し出がありました。来場者数や各ブースの様子を見ると、今年は船橋市民が環境に目を向けてきている熱意を感じました。今年も船橋市の姉妹都市提携デン

マーク・オーデンセ市との交流として国際交流室が開催する持続可能性会議のミニチュアとして黒川副市長と学生6名及び船橋市環境フェア実行委員長と私で参加しサステナービリティー・パズルによる持続可能な「まちづくり」に市民がどう環境分野・社会的分野・経済的分野が関わるかの模擬会議を「公民館」のテーマで実施しました。

(文責 斎藤 清)



パネル展示



持続可能性会議  
出席の学生

## 「エコフェアいちはら」への出展

平成27年6月13日(土)市原市役所駐車場をメイン会場に午前9時から午後3時まで開催された。

環パちばからは桑波田代表、横山・小倉の3氏と吉田の4人が参加し、桑波田氏はエコフェアいちはら実行委員会、横山氏はエコメッセのブース担当であった。

環パちばのブースは小倉さんと吉田とで担当、「外来種から日本の自然を守ろう」のテーマに児童を対象にした模擬魚釣りをを行うための、パネル展示、環パちば「だより」、エコサロン案内パンフレット等の陳列、模擬魚用水槽空気入れ、模擬魚入れの準備等を行った。

9:50 桑波田氏の司会で開会式が始まり、実行委員会時田会長の開会宣言、佐久間市長(6月15日で退任)の挨拶で開会した。

開会後の少し過ぎた頃から親子連れの子供たちがプールに來始めた。天候に恵まれたことから子供たちも多数参加していた。水のないプールに模擬魚を並べ、小さな磁石竿で釣り揚げる。外来魚には模擬魚の裏に赤丸が付けてあり、その都度外来魚の説

明を行い、外来種のリーフレット、千日草・フウセンカズラの種を保護者に手渡した。

小学校の中学年と思われる児童の一人が、外来魚だけを目的に釣り揚げ、水槽内の殆どに近い外来魚を釣り上げていたのには感心した。テレビで活躍している「さかなクン」を思い出させる鮮やかさであった。15時に閉会式が行われ、後始末を行いフェアが終了した。(文責 吉田 陸)



模擬魚釣りをしている子供たち

## 第18回浦安市環境フェア出展報告

温暖化防止うらやす 川島謙治

浦安市環境フェアが、6月28日(日)JR新浦安駅前広場で、『浦安の環境を知ろう!育てよう!みんなのECOCORD!』をテーマに、36団体(市民19、行政8、企業9)が参加し開催されました。

フェアは、環境に関わる多彩な出展ブースやステージパフォーマンスを通じて、市民が楽しみながら、知り、学び、環境を大切に思い、行動を起こす力を育むことができる参加・体験型イベントが展開されました。

“温暖化防止うらやす”は、①子供たちに、『手回し充電電動カーレース』で、エネルギーが必要であることを体感する中で「電気を大切に使う意識」を持ってもらいました。また、②大人の方向けに、地球温暖化の実情を知ってもらうためにIPCC第5次報告をベースにしたパネルに



ステージでのパフォーマンス

よる啓発と、③自分のエコタイプを知り、ストレスなしでエコ行動に誘導するYES・NOチャート『あなたはどのエコタイプ?』(JCCCAツールを基本に作成)に参加していただきました。自分のエコタイプを知ってもらった参加者には「タイプ別エコ行動リスト」を配り、いろいろなエコ行動があることを知り、まず自分にあったエコ行動から始め、エコ行動を広げていくことが地球温暖化防止につながることを説明させていただきました。

梅雨の真中で雨天の予想が一転し晴天、猛暑の中で多くの市民が温暖化防止うらやすのブースに立ち寄っていただき、メンバー全員が汗を拭き拭き対応する一日でしたが、多くの皆様に地球温暖化防止のためには、一人ひとりのエコ行動が重要であることを分かっていただけたと思います。



温暖化防止うらやすのブース

## 第63回環境パートナーシップエコサロン

### 印旛沼流域水循環健全化第2期行動計画策定に関する意見交換会

印旛沼とその流域の環境改善のために、印旛沼流域水循環健全化会議（以下、健全化会議）という集まりが2001年にできました。まず2004年2月に「緊急行動計画」を策定し、2010年1月にはマスタープランである「印旛沼流域水循環健全化計画」（～2030年度）と、「第1期行動計画」（2009～2015年度）が策定されました。

この第1期が今年度に終了するため、健全化会議では第2期行動計画策定の準備を始めています。健全化会議のことを知ってもらい、第2期行動計画に市民の声を今まで以上に反映させ、「市民と一緒に作り上げる行動計画」になるよう、今年度は市民と健全化会議事務局の意見交換会が何回か開催されることになっています。

この特徴は市民（団体）が主催する会に事務局担当者が説明に来る、というものです。そこで、「つながれ・ひろがれ」をモットーとする環パでも早速、エコサロンとして6月29日に千葉市のきぼーるにおいて意見交換会を開催しました。

参加者は当会会員を中心に、健全化会議事務局も含めて24名で、まず事務局から「印旛沼の現状と課題」と「印旛沼流域水循環健全化計画」についての詳しい説明があり、その後はフリートーキングで質問と意見を出し合いました。

参加者からは、「今まで印旛沼のことを良く知ら

なかった。もっとみんなに知らせてほしい」「水質ワースト1などの悪いところではなく、印旛沼の良いところをアピールしたい」「印旛沼の水（千葉県営水道）はおいしくない」「印旛沼が水源地であることを、もっと知らせる」「水を飲む人が印旛沼を大事にしたい」などの幅広い活発な発言があり、最後に桑波田代表の「本当の意味での協働を進めるために、お互いの立場でできることを考えていこう」というまとめで会を閉じました。

このときの主な意見は、『いんばぬま情報広場』（<http://inba-numa.com/>）の第2期行動計画策定特設ページに「第2回市民意見交換会報告」として載っています。どうぞご覧ください。



（文責 小倉久子）

## 第64回環境パートナーシップエコサロン

### 「NPO 法人格取得を学ぶ～メリット、デメリット及び手続きは？～」

千葉県県民生活・文化課に出前講座を依頼して、7月8日（木）15:30～17:30、きぼーる（特別会議室）で、エコサロンを開催しました。講師は、NPO 法人班長の千倉真理子氏でした。講座は、「NPO 法人取得を学ぶ」「特定非営利活動法人申請・届出の手引き」の資料をもとに丁寧に説明してくださいました。資料はかなりの量なので、法人格取得の概要を駆け足で説明、メリット、デメリット、手続きについての質問に時間を割いて下さいました。

千倉氏の法人格取得した際は、責任のある団体として活動して欲しいとの言葉が残りました。これまで多くの法人格取得団体を見られてきての強いメッセージと理解しました。また、理事長だけの思いで法人格を取得しても継続しにくい、事業報告、会計報告等毎年提出する義務があるが、提出できていない団体があること等知りました。

さらに、一般社団法人は2名の社員がいれば取得できること、書類作成等難易度は低いが、諸官庁へ

の報告義務がないので、責任ある団体としての認知度は低いとのこと。

エコサロンの参加者は、当会の運営員と近年入会の会員11名でした。手続き等面倒なこともありますが、総会で事業報告等がきちんと作成されていれば、大丈夫と思います。課題は、当会の今後の活動のミッションを再確認し、継続する団体としての組織づくりと思いました。

環境パートナーシップちばは、平成9年に設立され、今年は19年の活動に入りました。

設立宣言に、県内の環境保全団体をつなぐネットワークを築き、市民・企業・行政とのパートナーシップをめざしますと記されています。平成10年特定非営利活動促進法が策定され、県内でも多くの法人格を取得された団体が多くあります。

当会が継続して活動を展開するうえで、法人格取得あるいは任意団体として、今回のエコサロンをきっかけに学んでいきますので、会員の皆さまも、関心を持っていただければ幸いです。（文責：桑波田）

## おいしい水を～印旛沼の第二期健全化計画に向けて～

先日、第二期健全化行動計画に関する意見交換会の第二回目（環パの小倉さんの報告参照）に参加して、事務局の河川環境課の皆さまの誠意と熱意を強く感じました。私は、一市民の務めとして何らかの意見表明をしたく、この計画への期待を記すことにしました。

まず、わが家の最大の望みは標題のとおり、水道の蛇口から直接おいしい水を飲みたいことです。

第一期健全化行動計画をいんばぬま情報広場で閲覧すると、印旛沼再生の5つの目標の第一に「良質な飲み水の源（になるように！）が掲げられています。その成果はどうでしょうか。どうか、二期計画ではおいしい水への取り組みをもっと強く打ち出してください。

わが家は、千葉市美浜区にある500世帯程のマンションに住んでいます。私の年齢は70歳余。飲み水は水道の蛇口からの水が大半で、この水は率直に言っておいしくない。おいしい水が必要なときのみ市販のミネラルウォーターを使います。

私のこの感覚は、他の地域の水道水のうまさを知っているため特に敏感だと思えます。他の水道とは、静岡県で暮らした時の水道水と、時々長野県の実家に行って飲む水道水のことです。

水と緑の少ない大都市圏に住む限り、まずい水道水は宿命だから我慢しなさいと言われそうです。そ

こで、全国のおいしい水事情をネットで調べてみました。そこで分かったことは、予想どおり水と緑にあふれた県はおいしい水を飲み、東京、大阪、福岡の大都市の近隣県では、全国のまずい水ワーストテンに並んでいます。詳しいデータは、「水を考えるプロジェクト」の一環として、2015年3月に行われた「水についての意識実態調査」をご覧ください。ちなみに、千葉県は46県中の45位、最下位は福岡県です。担当する行政のご苦労が偲ばれますが、だからと言って、今後も国民の生活水準の向上が希求されるなかで、大都市圏のまずい水が放置されて良いとは思えません。

千葉県水道局では平成18年に「おいしい水づくり計画」を策定し、以後、現在までに20回の「おいしい水づくり推進懇談会」をとおり、各種調査や計画検討、実施を行ってきました。その中で、わが家が受水している柏井浄水場の状況を見ると、印旛沼の水を浄水している東側系列ではすでに高度処理が行なわれており、29年度までに全施設について高度浄水処理施設を建設することでした。

明るい材料ではあるが、その完成後の水道水の味は、ひとえに印旛沼の水質浄化の進捗次第となりませう。これが、二期計画の大きな課題ではないでしょうか。（文責 牧内弘明）

## 房総三大地震を知ろう

東日本大震災（2011. 3.11 発生）による津波災害を契機として、過去の巨大地震による津波の高さを調査し、ハード及びソフトの対策に反映させる重要性が高まっています。

房総地域では、この地震で旭町が津波に襲われ、死者13人、行方不明者2人が犠牲になりました。

今後、房総地域がもっと巨大な津波に襲われるかどうか、その備えができていくかなどについて、県民が共通の認識を持つことが必要ですが、常に「災害は忘れた頃にやってくる」のが現実です。

県民の意識醸成には信頼できる情報共有が不可欠ですが、今の情報氾濫時代では情報の選択が難しく、いきおい自分の眼と頭と足で情報を得ることが大切になります。

私が所属する「ちば河川交流会」は、そんな意識を持ちながら以下のような過去の巨大津波の痕跡を調べる活動を行いました。こんな活動が市民の間に広まることも大切だと考えます。

房総地域の巨大地震は、慶長9年（1604）、延宝5年（1677）、元禄16年（1703）が「房総三大地震」と呼ばれる地震で、とりわけ元禄の地

震は、野島崎沖を震源とするマグニチュード8.2と推定される最大級の地震で、九十九里浜では海岸から5Km程度内陸まで到達し、現在の白子町では1000人、長生村では900人を越える犠牲者がありました。

この津波の痕跡を現地で確認するために、以下の痕跡を見学し当時の津波の高さと被害の甚大さを実感しました。詳細は別の機会で報告します。

平成23年2月

○鴨川市前原地区の元禄地震前に造られた津波避難丘（写真）

○南房総市和田地区の津波到達地点石碑（真浦の威徳院石段）

平成25年3月

○山武市にある松ヶ谷千人塚と百人塚



（文責 牧内弘明）

## 第1回「海辺・水辺交流会」を終えて

エコメッセ実行委員会 交流部会 谷合哲行

2015年6月27日(土)、海の見える千葉工業大学新習志野校舎 12号館を会場にエコメッセ2015in ちば実行委員会が主催する本年度第1回目のテーマミーティングとして、“集まれ”海辺・水辺”の仲間たち～身近な海辺・水辺から東京湾全体まで～”を開催しました。この交流会は昨年エコメッセ2014 in ちば実行委員会で提案された”まちづくり”という大きなテーマの一分科会として企画していたものですが、昨年度は具体的な活動ができませんでした。今年度に入り、ようやく海辺・水辺に関わる活動をされている団体・個人の方との準備体制が整い、情報を発信・交換でき、協働につながる交流ができる場として今回のテーマミーティングが開催される運びとなりました。奇しくも2013年から「東京湾を美しく豊かな海に再生しよう」という取り組みを実践している行政、自治体、企業、市民団体が、日頃の活動をアピールする場として東京湾大感謝祭が開催されており、今回のテーマミーティングにも事務局の方にご参加いただき、イベントの趣旨や経緯、団体としての参加方法などについてご紹介いただきました。

エコメッセが開催されている幕張メッセも東京湾岸に隣接しており、近隣には三番瀬やラムサール条約に登録されている谷津干潟があります。これまでのエコメッセの出展団体の中にも、浦安、市川、船橋、習志野の4市で三番瀬に関わる活動をしている団体が多数あり、今回も浦安水辺の会、浦安三番瀬を大切に作る会、フィールドミュージアム・三番瀬の会、三番瀬のラムサール条約登録を実現する会などが参加してくださいました。また、東京湾に流入する河川に関わる団体として、手賀沼流域フォーラムや印旛沼を対象に活動している環境パートナーシップちばにも参加していただきました。より広域的な活動をされている団体として、東京湾大感謝祭実行委員会、漁港漁場協会、海洋プランニング(株)などにもご参加いただき

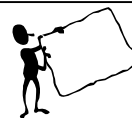
ました。行政機関からは千葉県河川環境課から三番瀬・印旛沼関係を担当されている方にご参加いただきました。今回テーマとした”海辺・水辺”の現状を議論するのにふさわしい役者のそろった会を実現することができました。また、これまでの海辺・水辺に対する関わり方とは異なる視点として、千葉透明骨格標本研究所の萬羽忠興さまから新しい環境教育素材としての海洋生物の透明標本製作というお話も聞かせていただくことができました。いつもエコメッセの活動に協力していただいているPV-Net 千葉やコムデザインにもご参加いただくことができましたし、エコメッセのマスコットキャラクターにもなっているエコネコの作者、環境漫画家のつやまあきひこ氏にもご参加いただき、幅広い視点から、議論を深めることができました。

今年はエコメッセにとって、20周年の記念の年に当たっています。ここ数年、実行委員会の中では、これまで20年続けてきたこの活動を、これからの20年に向けてどのように引き継いでいったらよいかという大きな課題に直面しています。今回のテーマミーティングでも、会場の設営や運営に千葉工業大学の学生に協力していただきましたし、エコメッセの実行委員会にも参加していただいている千葉大学の学生にも参加していただきました。小さな交流活動ですが、こうした場を利用して、我々の活動に興味を持ち参加してくれる次世代を育ててゆく活動を継続したいと考えています。

今回のテーマミーティングをきっかけに、本テーマでの交流会が定期的、継続的に行えるような体制作りを行いたいと思っていますし、将来的には、交流会としてエコメッセや東京湾大感謝祭に協働出展できるように発展させたいと考えています。今年度中には本テーマの第2回交流会を開催できると思いますので、ご期待ください。



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 28 —  
おききました！ この人・この団体



## さんむフォレスト

さんむフォレスト 代表 稗田忠弘

### さんむフォレストの目指すこと

山武の荒れた森林を再生しようと、山武杉によるすまい造りをするグループ、さんむフォレストを発足したのは1998年の春でした。優れた建材である山武杉の産地でありながら住まいづくりに山武杉は使われず、大半の住まいはハウスメーカーによる工業製品としてつくられ、画一性が風土になじまず、地域のらしさが急激に失われていました。地元の木と地元の技能で地元の民家をつくるという、かつては当たり前だった資源循環を復活させることで、林業の振興と伝統的技能の継承を可能にし、風土に根ざした景観を取り戻すという目標を掲げました。

山武林業は、山武杉が挿し木で育つクローンであることや、戦後の高密度な植林などから様々な問題を抱えています。もっとも深刻な問題は、すでに85%の木が被害を受けているといわれている非赤枯れ性溝腐れ病の蔓延です。幹の中間がえぐれるように腐るこの病気によって山武杉は市場価値を失い、林業家の意欲を減退させる原因にもなっています。さんむフォレストでは森林の現状に即した適材適所の木使いで、病害を受けた木も住まいづくりに生かす工夫をしています。また、建築に伴って発生する残材をエネルギー利用するために、薪ストーブやウッドボイラーの使用を勧めています。木質バイオマスのエネルギー利用は、環境負荷の少ないくらしを実現し、持続可能な地域づくりのための大切な要素です。

日本の林業が衰退したのは外材の輸入自由化によって木材単価が下がったためといわれますが、むしろ家庭での燃料構造の変化こそが大きな要因だと考えています。かつては林業に欠かせない枝打ちや製材所での残材整理は、全て家庭燃料へと直結して森林



山武杉の森林



薪ストーブのあるインテリア

資源は余すところなく使い切る仕組みがありました。不便な昔に帰ることはできなくても、最近では薪ストーブでの暖房などを新しいくらしのスタイルとして楽しむ人もふえてきました。

地域の燃料構造を再編するためには公共での利用も必要です。山武市では中学校の建替えを機にペレットストーブを導入し、千葉県初のペレット製造を始めました。木質バイオマスはペレット化することで暖房や給湯、農業など使用する可能性が広がります。ストーブやペレットボイラーへの助成制度なども始まり、現在の山武市は地域の進む方向を明らかにしているように見えます。

資源循環の運動は様々な形で全国的に展開されていますが、私たちの山武での運動は単なる地産地消では不十分だと思っ



山武杉の住まい

ています。資源循環の仕組みの中で建築とそこでのくらし方をトータルに考えることで、森林とくらしを結びつけ、くらしに必要な森林とすることこそ森林再生への道だと考えています。そこから生まれる住まいは民家として地域の景観を形づくるものになります。

併せて民家づくりを支える技能も継承されなければなりません。しかし、人から人へと伝える以外に道がない伝統技能は、技能者の高齢化と後継者不足は明らかで、今が瀬戸際という状態です。

農業の世界で種の自家採取を繰り返すことで地域の固有種が固定されてゆくように、山武杉にまつわる先人の多く思いが伝えられ、それが人々の山武杉への愛着や誇りの元になっているのだと思います。私たちはその思いを引き継ぎ、次の世代へ渡す役割を自覚して、住まいづくりを美しく持続可能な地域づくりにつなげたいと願っています。

〇さんむフォレスト

代表 稗田 忠弘

連絡先 千葉県東金市東上宿 13 番地 1

TEL:0475-52-7510 FAX:0475-52-7511

# 運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを  
info@kanpachiba.com にお知らせください。  
(広報部)

## 6月運営委員会

日時 6月10日(水) 18:00~20:20

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・だより 103号印刷・発送
- ・印旛沼流域圏交流会 6/3

### 【協議】

- ・だより 104号
- ・HP 進捗状況
- ・エコフェアいちはら・エコメッセ 2015in ちば
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金応募
- ・千葉市公民館講座
- ・印旛沼流域体験フェア
- ・エコサロン 6/29、7/8 開催
- ・その他

## 7月運営委員会

日時 7月8日(水) 18:00~20:55

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・エコフェアいちはら
- ・エコメッセ 2015in ちば
- ・エコサロン(6/29: 24名出席)  
(7/8: 11名出席)
- ・千葉市公民館講座(7/29 積橋、11/17 新宿)
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金応募
- ・印旛沼流域体験フェア 10/24・25

### 【協議】

- ・だより 104号
- ・HP 進捗
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金内容検討
- ・法人格と一般社団法人の検討

## お知らせ

### エコメッセ 2015in ちば 開催

日時：平成27年9月23日(祝・水)  
10:00~16:00

会場：幕張メッセ国際会議場

参加費：無料

テーマ：エコっておもしろい

内容：

こどもから大人まで、参加体験型のブースが多く、環境保全が楽しめます。こども環境アイランドアイラント、3Rシンポジウム等セミナーも開催します。防災グッズ等の紹介もあります。

主催：エコメッセちば実行委員会

お問い合わせ：エコメッセちば実行委員会事務局

電話：080-5374-0019

Fax：043-246-6969

E-mail：info@ecomesse.com

ホームページ：http://www.ecomesse.com

### 第5回E-ボート千葉大会 参加チーム募集中！！

水の大切さ、楽しさ、水の恵みを体感してみませんか？

日時：平成27年10月17日(土)

9:30~14:30※受付開始：8:30

※雨天順延 10月18日(日)

会場：フェスティバルウォーク蘇我特設会場  
千葉市中央区川崎町51-1

募集数：50チーム(一般の部/ファミリーの部)

参加費：1チーム5,000円

申し込み締切：10月4日(日)

お問い合わせ：Tel：043-497-3951

Fax：043-497-3952

e-mail：info@eboatchiba.com

公式ホームページ：eboatchiba.com

主催：第5回E-ボート千葉大会

～ハーバーシティ蘇我～実行委員会

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール：info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

## <環境パートナーシップちば>

### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		